

これまで数回にわたって津山城の天守の技術的な特徴について考察してきました。今回は天守考察の最終回として、津山城築城400年記念事業で作成されたコンピュータグラフィックス(以下「CG」と略します)に登場する津山城天守(写真1)について紹介します。このCGの津山城は築城当時の天守の姿で、広島大学名誉教授の鈴木充先生により監修されたものです。(津山城は文化6年(1809年)火災に1度、遭っています)



写真1 北東から見た天守(CGから)

まず外観で特徴的なのは、以前に述べたように最上層の入母屋屋根以外に破風が全く使用されておらず非常にシンプルな外観である点です。

また、下から4層目以外の屋根は瓦葺きですが、4層目の屋根のみが板葺きになっています。この屋根については、幕府をはばかりて5層の天守を4層に見えるようにわざと板葺きにしたというような説もありますが、確証はありません。

そして、この天守の最大の特徴は最上層にあります。最上層にはほとんど壁がなく(白く見えるのは障子です)、さらに外周に太い柱が立ち並んでおり、4層目以下の白漆喰塗籠の壁面に比べて非常に開放的な構造になっています。このような構造で再

# 津山城百聞録

## 50 津山城の天守5 CG映像の天守

現した理由は、最上層内部の仕様にありました。

文献によると最上層はすべて畳敷きで格子天井を備えており、さらに中央に2間×2間半の上段の間を設置しており、その部分の天井は折上格天井という、御殿建築で最上級の仕上げになっていました。また、その上段の間には九曜紋の入った釣鐘(写真2)が存在していたことも分かっています。この釣鐘は細川忠興(妻は非業の死を遂げた細川ガラシャ)から森忠政に贈られたものといわれており、「編笠風の釣鐘」などと呼ばれる南蛮風の釣鐘でした。(現在は大阪の南蛮文化館に展示されています)

これらの記載から、天守の最上層は折上格天井を持つ上段の間の中央に釣鐘がつるされているという、極めて特異な景観を呈していたことが分かります。



写真2 天守最上層内部のようす(CGから)

ここから先は想像になりますが、忠政は細川忠興からもらった釣鐘を非常に大切にしており、天守最上層はまさにこの釣鐘のための空間として存在していたと思われます。また、この釣鐘は恐らく実際に使用されていたはずですが、そしてこの釣鐘の音を城下に響かせるために、天守最上層がこのような開放的な構造になっていたのではないのでしょうか?

中国の人に市内を案内してあげていると、元気に空を泳ぐこのぼりを発見。とても喜んでいました。中国でも日本のこのぼりの風景はよく知られているとのことで、中国語では「鯉魚旗」と書くそうです。あれって旗なんですね。(e)

(ひ)さんの後任です。よろしくお願ひします。6年いた前職は長かった…。ところで小柄のカタクリの花、きれいだっただ。淡い紫の花を咲かせるのに約6年かかるそうです。また6年はキツイですが、私も広報マンとして花咲き、卒業するぞー。(x)

「おはようございます!」通勤途中の私に大きな声であいさつしてくれた小学生。私の「おはよう。行ってらっしゃい」の声が、少し小さかったかもしれませんが、(反省)。この日は、とてもいい気持ちで1日が始まりました。(郁)

### 編集後記

### 今月の納税

国民健康保険料1期  
軽自動車税全期  
納期限: 5月31日(月)

### ひとの動き

(4月1日現在)  
人口 89,894人(前月比 282)  
男 42,820人(同 148)  
女 47,074人(同 134)  
世帯数 34,851世帯(同 18)

### 3月中の異動数

出生 103人、死亡 81人  
転入 734人、転出 1,038人

編集・発行 津山市企画部行政広報室  
〒708-8501岡山県津山市山北520  
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp  
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>  
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日  
印刷 株式会社 廣陽本社



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。

5月  
2004